

日本行動科学学会会則

第1条 本学会は日本行動科学学会 Japanese Association of Behavioral Science とする。

第2条 本学会の事務局は、一定期間運営委員会の定めた場所に固定する。(附則1参照)

第3条 本学会は行動の基礎研究及び応用的研究に関心を有する者が相互の連携協同により、行動の基礎理論とその応用の進歩をはかることを目的とする。

第4条 本学会は前条の目的達成のために次の事業を行う。

- 1) 会員の研究促進を目的とする年次大会の開催
- 2) 研究を発表する場としてのウィンターカンファレンスの開催
- 3) 会員が本学会の組織運営に関して協議する年次総会の開催
- 4) 機関誌の発行
- 5) 関係有志会員の共同研究を目的とする会合の開催
- 6) 会員の学術的活動の情報交換並びにその紹介
- 7) 本学会の目的に関する内外の情報交換並びにその紹介
- 8) 学術的経験、専攻領域等を掲載する会員名簿の発行
- 9) その他本学会の目的達成のために必要な事業

第5条 本学会の会員は正会員、名誉会員及び賛助会員とする。正会員は現会員の1名の推薦により、運営委員会が承認したものとする。名誉会員は、特に本学会（または本学会の前身の異常行動研究会）の発展に功績が有った会員を運営委員会が推薦し、承認する。賛助会員は本学会の事業に援助をなし運営委員会の承認を得たものとする。正会員にて会費2年分を滞納したものは運営委員会にはかつて退会扱いとする。

第6条 本学会の事業を運営するために運営委員会を設置する。

1) 運営委員会は次の役員からなる。

会長（運営委員長）	1名
編集委員長（運営委員）	1名
事務局長（運営委員）	1名
運営委員	若干名

2) 運営委員は日本行動科学学会の運営にあたって会長を補佐するとともに、所属する地区における学会活動を推進する。

3) 会員は各自の所属する地区から、所定の運営委員を選出する。(附則2参照)

4) 会長は、運営委員の推薦による。

5) 会長は、運営委員会と総会において、議長を務める。

6) 会長は、運営委員として会員から2名までを追加して指名することができる。この事項に該当する運営委員は、その所属する地区の運営にはかかわらない。

7) 会長は運営委員会と協議し、運営委員から以下の役職を担当するものを指名する。

編集委員長1名、事務局長1名。

8) 会長は運営委員会と協議し、運営委員以外の会員から会計監査2名を指名する。

9) 会長は運営委員会と協議し、以下の役職を担当するものを指名する。

年次大会委員長1名、ウィンターカンファレンス委員長1名

10) 会長は事務局長と協議し、事務局幹事若干名を指名する。

11) 会長は運営委員会と協議し、これ以外の役職を設けその役員を指名することができる。

- 12) 会長および役員の任期は役員就任の総会より1期2年とし、3期を超えてその任にとどまることはできない。但し、年次大会委員長とウィンターカンファレンス委員長の任期は委員長就任時より当該大会の終了までとする。

第7条 本学会の事業および会計年度は4月1日から翌年の3月31日までとする。

第8条 会長は編集委員長と協議し、編集委員を若干名指名する。編集委員長と編集委員は編集委員会を組織し、機関誌「行動科学」の編集および出版に当たる。

第9条 運営委員会は研究・出版の企画、財務、庶務などの運営を行う。

- 1) 年次大会の企画と運営は、運営委員会の承認のもとに年次大会委員長が行う。
- 2) 年次大会での研究報告は編集委員会の責任のもとに該当年度の「行動科学」に掲載する。
- 3) ウィンターカンファレンスの企画と運営は、運営委員会の承認のもとにウィンターカンファレンス委員長が行う。
- 4) ウィンターカンファレンスでの研究報告は編集委員会の責任のもとに該当年度の「行動科学」に掲載する。

第10条 本学会の経費は会費、寄付金または補助金等によって支弁する。

第11条 正会員の会費は年額4,000円とする。名誉会員の年会費は免除する。賛助会員の会費は1口（年額20,000円）以上とする。

第12条 予決算報告は年次総会において承認決定されねばならない。

第13条 年次総会は全会員の過半数の出席により成立する。但し定足数に満たないときは、仮総会とする。仮総会の決定事項は文書によって全会員に通知されねばならない。それが通知されたのち2ヶ月以内に会員総数の過半数が文書によって反対したときは、総会の決議として効力を失うものとする。

第14条 本学会運営上必要な会則の附加、変更は年次総会の決議により行われる。

第15条 本学会の事業執行の結果については、監査を受けて報告しなければならない。

附則1 事務局は当分の間、金沢工業大学におく。

(〒924-0838 石川県白山市八束穂3-1 金沢工業大学やつかほりサーチキャンパス
伏島あゆみ研究室 e-mail: office@jabs.jp)

附則2 地区の運営委員数は、現在の各地区に所属する会員数に基づき、当分の間、北海道・東北地区2名、関東地区4名、東海地区1名、関西地区2名、中国・四国地区2名、九州・沖縄地区2名、計13名とする。

附則3 本則は2016年4月1日より実施する。

日本行動科学学会誌について

1. 本誌の雑誌名は「行動科学」とし、英文タイトルは Behavioral Science Research とする。
2. 本誌は Vol.32 No. 2 より日本行動科学学会の機関誌として年 2 回発行する。なお、学会の会則に基づく編集委員会が発行に関する一切を担当する。
3. 「行動の基礎研究及び応用的研究に関心を有する者が相互の連携共同により、行動の基礎理論とその応用進歩をはかること」という当学会の目的に一致した論文を掲載する。
4. 論文は邦文あるいは英文で書かれたものとし、論文内容は未公開のものに限る。
5. 本誌には、投稿論文、依頼論文（年次大会、ウィンターカンファレンス、及びその他の本学会主催の集会での発表に基づく論文）の他、編集委員会において認められたその他の原稿を掲載する。投稿論文、依頼論文の体裁については執筆規定によって別に定める。
6. 投稿論文は編集規定に基づく審査の後、できるだけ速やかに掲載される。また依頼論文は、原則として年次大会、ウィンターカンファレンスおよびその他の集会の後、最初に発行される号に掲載される。

「行動科学」編集規定

1. 「行動科学」には、投稿論文、依頼論文の他、編集委員会において認められたその他の原稿を掲載する。論文には受稿日と受理日を記載する。
2. 投稿論文は本学会の目的に沿う内容を持った論文であることをまず問題とし、「原著」、「総説」、「短報」は編集委員会から委託された 2 名の査読者による査読を受ける。査読者は編集委員会から査読依頼を受けた場合、1 ヶ月以内に掲載可否について報告する。編集委員会は一定の書式の評書を用意し、公平な評価を求める。また、「批評」は会員間の意見の交流の場と考えるので、編集委員会においてのみ審査する。
3. 依頼論文は運営委員会の承認を受けた、年次大会委員長あるいはウィンターカンファレンス委員長（その他の集会の場合はこれらに準じる者）の依頼に基づき掲載される論文である。執筆の体裁は執筆規定によって別に定める。ただし編集は編集委員会に一任する。
4. 評者あるいは投稿者は自己の評定や意見、主張について意見がある場合は、「批評」に投稿し、広く意見を求める。
5. 論文の掲載の促進をはかるために、編集委員会の最終決定が次号発行の 2 ヶ月以前であれば次号に、またそれ以後の場合は次次号に掲載される。
6. 別刷りは実費を請求し、25部を 1 単位として作成する。なお依頼論文については希望がある場合には 25部を無料進呈とする。

「行動科学」執筆規定

1. 「行動科学」に掲載される論文は、投稿論文と依頼論文とし、未発表のものに限る。すべての論文には邦文もしくは英文を用いる。
2. 投稿論文は本学会の目的に沿う内容を持った論文とし、原著、短報、総説、批評の 4 種を設ける。投稿資格は学会正会員及び会員の推薦した者となる。なお、連名による執筆の場合、著者の内の少なくとも 1 名が学会正会員でなければならない。
3. 依頼論文は運営委員会の承認を受けた、年次大会委員長あるいはウィンターカンファレン

- ス委員長等の依頼に基づき執筆される論文であるが、執筆の体裁と取り扱いは投稿論文の「総説」に準ずるものとする。
4. 原著・短報は未発表の研究論文とし、表題（邦文、英文）、著者名（邦文、ローマ字表記）、所属（邦文、英文）、所属の住所（邦文、英文）、Running head（邦文、英文）および連絡先を第一ページに記し、第二ページに200語以内の英文 Abstract を記し、第三ページ以降に、序（Introduction）、方法（Method）、結果（Results）、論議（Discussion）、および引用文献を続けて書く。ただし短報の場合は論議の要約の部分を結果の表記に含めて結果と考察（Results and Discussion）とする。総説は専門分野の歴史、動向、評論を行う論文とし、原稿の体裁は各章立てにする点を除いて原著に準じる。批評は特定の「行動科学」掲載論文等について考察を加えたり、それぞれのテーマについて議論を行うための論文とし、体裁は総説に準じるが比較的短いものとする。なお、すべての原稿は表紙から順にページ番号をつける。また、図表の挿入箇所はページ左のスペースにその旨記す。図表の説明等は英文によるものとし、図は Figure、表は Table とし、前から順に番号をつける。また、論文の内容を端的に表す3-5項目のキーワードを挙げる。
 5. 論文の記述は簡単明瞭に現代かなづかいを用いて行う。なお英文論文は投稿以前に必ず native speaker の専門家に目を通してもらう。
 6. すべての原稿はワードプロセッサやコンピュータを用いて記述するものとし、邦文原稿は明朝体フォント12ポイントを目安として、英数字は半角を使用する。A4判用紙に、上下左右のマージンはすべて50mmとり、1行22文字、1ページ21行の書式で記述する（462文字／ページ）。この原稿4枚で刷り上がり1ページに相当する。英文原稿も同じくA4判用紙にダブルスペースでタイプするが、この場合もワードプロセッサやコンピュータを用いることとする。
 7. 文中の引用文献の表記法は日本心理学会発行の「執筆・投稿の手びき」の最新版にしたがう。
 8. 脚注は表題と所属機関についての補足説明、謝辞、内容の補足説明に限り用いる。文中の当該箇所に前から順に通し番号をつけ、原稿は引用文献の次のページに書く。
 9. 原著は図表込みで刷り上がり8ページ（6に示した書式に換算して約32枚）、短報は刷り上がり4ページ（同約16枚）、総説は刷り上がり8ページ（同約32枚）、批評は2ページ（同約8枚）を限度とする。図や表は必要最小限にとどめ、1ページに1枚ずつ書く。図表はそのまま製版できる状態にしなければならない。カラー写真の場合は、その製版印刷の全額を著者の負担とする。表は一番上の行の中央に Table 1 のように書き、次の行から表の説明を書き、その下に表を書く。
 10. 図の説明は脚注の次のページ以降に Figure 1 から順に書く。
 11. 上記以外の詳細は原則として、日本心理学会発行の「執筆・投稿の手びき」の最新版を参照する。
 12. 本誌に掲載された論文の著作権は日本行動科学学会に帰属する。
 13. その他、疑義が生じた場合は編集委員会に問い合わせる。

「行動科学」編集委員会規定

1. 日本行動科学学会機関誌「行動科学」を編集するために、編集委員会を設置する。
2. 編集委員会は、編集委員長、編集顧問及び若干名の編集委員をもって構成する。

3. 編集顧問は会長経験者とし、編集委員長は運営委員のうちの1名がこれにあたる。
4. 編集委員は運営委員会の議を経て、会長がこれを委嘱する。
5. 編集委員の任期は2年とし、重任をさまたげない。但し、編集委員のうち、年次大会委員長及びウィンターカンファレンス委員長の任期については、委員長就任から該当号発行時点までとする。
6. 編集委員会は、委員長が召集する。
7. 編集委員会は次の業務を行う。
 - 1) 別に定める編集規定に基づく機関誌の編集
 - 2) 投稿原稿の審査及び審査の依頼
 - 3) 別に定める審査規定（内規）に基づく投稿原稿の採否の決定
 - 4) その他機関誌の編集に関する業務
8. 編集委員会は、投稿原稿の審査の業務を行うため、編集委員会以外の会員に審査者を委嘱することができる。
9. この規定の変更改廃は総会の承認によるものとする。
10. この規定は1999年1月24日から実施する。

「行動科学」投稿のご案内

■電子投稿の要領

「行動科学」では、2008年度より、原則として電子メールによる投稿のみを受け付けています。原稿の作成は執筆規定に基づいてください。なお、投稿に際しては以下の点に留意してください。

1. 原稿はすべて Word ファイル形式で、電子メールに添付して、編集事務局宛て (hensyu@jabs.jp) に送付してください。
2. 添付するファイルは、以下の「2つのファイル」に分けてください。
 1. 添付票（添付票は日本心理学会発行の「執筆・投稿の手引き」を参考に作成してください）
 2. 査読用原稿（図表と図表説明文を含む。著者のわかる情報は省いておくこと）
3. それぞれのファイル名の頭は、必ず第1著者の「姓」のローマ字書きとしてください。例えば、第1著者が山田花子さんの場合には、
 1. Yamada-attach.doc
 2. Yamada.docの要領で作成してください。なお、図表は査読用原稿の最後に、まとめて挿入して下さい。

■著作権

掲載された論文の著作権は原則として本学会に属します。著作権に関する問題は、著者の責任において処理することとします。著作人格権は著者に属します。著者が自分の論文を複製、転載などの形で利用するのは自由です。ただしこの場合、著者は本学会にその旨を通知し、掲載先には出典を明記することが求められています。

日本行動科学学会（JABS）各委員（2024年4月～2026年3月）

会 長：松 田 英 子（東洋大学）
 事務局 長：伏 島 あゆみ（金沢工業大学）
 事務局次長：多賀谷 智 子（びわこ成蹊スポーツ大学）

運 営 委 員：〈北海道・東北地区〉 山 田 弘 司（酪農学園大学）
 友 野 隆 成（宮城学院女子大学）
 〈関東・甲信越地区〉 田 積 徹（文教大学）
 清 水 安 夫（国際基督教大学）
 園 田 明 人（静岡県立大学）
 柳 井 修 一（東京都健康長寿医療センター）
 〈東海地区〉 東島（宍戸）恵美子（自然科学研究機構生理学研究所）
 〈関西地区〉 小 川 まどか（大阪大学）
 青 山 謙二郎（同志社大学）
 〈中国・四国地区〉 三 原 健 吾（比治山大学）
 堀 内 聡（比治山大学）
 〈九州地区〉 岡 村 尚 昌（久留米大学）
 矢 島 潤 平（別府大学）

会 計 監 査：坂 田 省 吾（新潟医療福祉大学）
 津 田 彰（帝京科学大学）

編集委員会：編集委員長 友 野 隆 成（宮城学院女子大学）
 編集委員 大 屋 藍 子（同志社大学）
 石 川 隆 行（宇都宮大学）
 前 田 洋 光（京都橘大学）
 箕 浦 有希久（佛教大学）
 大河内 浩 人（大阪教育大学）
 崎 本 裕 也（愛知県医療療育総合センター）

企画委員会：企画委員長 菱 村 豊（広島国際大学）
 企画委員 日 上 耕 司（大阪人間科学大学）
 伴 碧（大阪大学）

出版委員会：出版委員長 畑 敏 道（同志社大学）
 出版委員 堀 内 聡（比治山大学）
 田 中 芳 幸（京都橘大学）
 上 北 朋 子（京都橘大学）

広報委員会：広報委員長 坂 本 敏 郎（京都橘大学）
 広報委員 漆 原 宏 次（近畿大学）
 稲 垣 佑（一社PCM）

編 集 顧 問：今 田 寛（関西学院大学）
 岡 市 広 成（同志社大学）
 長 田 久 雄（桜美林大学）

行動科学ハンドブック企画委員会：内 山 伊知郎（同志社大学）
 岡 村 尚 昌（久留米大学）
 原 井 宏 明（原井クリニック）
 川 合 伸 幸（名古屋大学）
 青 山 謙二郎（同志社大学）
 島 津 明 人（慶応義塾大学）
 高 瀬 堅 吉（中央大学）
 嶋 崎 まゆみ（兵庫教育大学）

査 読 協 力 者

石川 隆行
木村 年晶
藤田知加子

伊波 和恵
酒井 美枝
堀内 聡

大河内浩人
崎本 裕也
前田 洋光

長田 久雄
畑 敏道
山岸 直基
(あいうえお順)

行動科学 第64巻 第2号
2026年3月31日発行

定価2,000円（機関購読4,000円）

編 集	日本行動科学学会編集委員会 編集委員長 友 野 隆 成
発 行	日本行動科学学会 学会会長 松 田 英 子
印 刷	有限会社 木村桂文社 〒615-8113 京都市西京区川島梅園町110

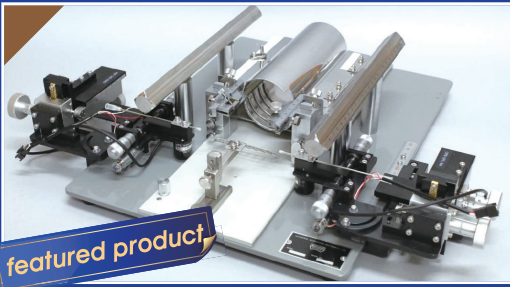
日本行動科学学会事務局	〒924-0838 石川県白山市八束穂3-1 金沢工業大学やつかほりサーチキャンパス 伏島あゆみ研究室 E-mail : office@jabs.jp
-------------	--



UP-TO-DATE

Sound Attenuating Room
-with electromagnetic shield-
free design / relocatable

Task Forcer -Restraint operant test-
Go task / Go & No-go task /
External & Internal-trigger task



featured product



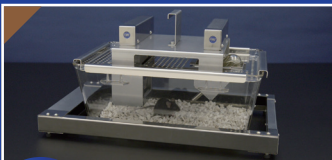






+ INTEGRATED TECHNOLOGIES for Behavior Test +

TIME IS ALWAYS ON YOUR SIDE



Point Meter
Just put animal inside of the cage

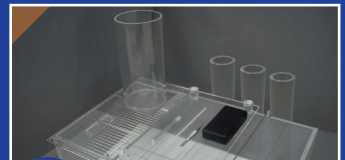


OPERANT TASK STUDIO
User friendly app
Behavior experiments made easy

Morris Water maze
Eight-arm radical maze
Barnes circular maze
Passive avoidance test
Y-maze
T-maze
Operant test
Active avoidance test
Open field test
Elevated plus maze
Social interaction test
Light/dark transition test
& conditioned place preference test
Porsolt forced swim
& tail suspension test
Vogel type conflict test
Startle response
pre-pulse inhibition test
Planter pain test
Activity sensor system
Wheel meter
Drinko-meter
Accelerating rotarod test
Wire hanging test
Grip strength test
Balance beam test and more...



Contextual & Cued Fear Conditioning Test



M × O × U × S × E
Modified SHIRPA
OBSERVATION TOOLS
world wide standard

小原医科産業株式会社

O'HARA & CO., LTD.

www.ohara-time.co.jp

〒165-0022 東京都中野区江古田4-28-16 TEL 03-3389-2451 FAX 03-3389-2453



Design your own maze
High Flexibility & Extensibility



touch panel
more than 90% correctness with mouse
Touching is steadily detectable



FULL AUTOMATIC
for mouse behavioral training

FREE MAZE -for mouse & rat-
Compose your special maze freely!

SELF HEAD-RESTRAINING PLATFORM
by Dr. Benucci

